



北米図書館におけるRDA実践に関する実態調査

平成25年度国立大学図書館協会
海外派遣事業(短期)報告

COPYRIGHT

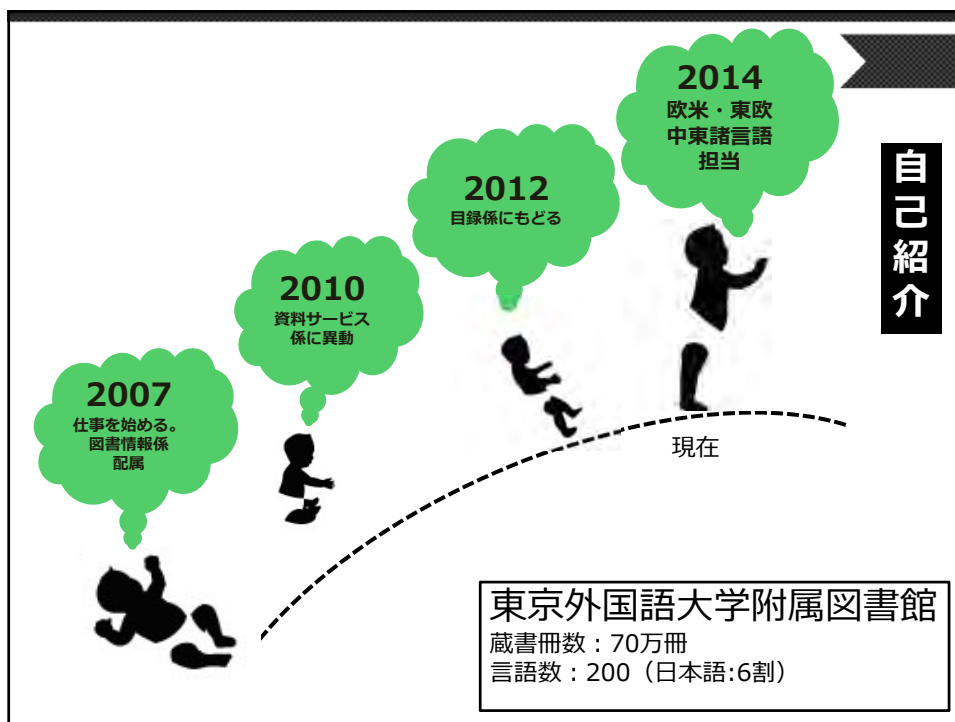
村上 遥
東京外国語大学学術情報課目録係

はじめに

2

初めての海外調査の機会
を与えてくださった
みなさまに、心からお礼
を申し上げます。





調査目的

4

目録規則がAACR2からRDA（Resource Description and Access）に
2005年4月：草稿公開 2010年：RDAテスト実施

米国議会図書館が2013.3.31 新方針

北米のRDA実施状況を現地で調査

- (1) 研修方法
- (2) RDAを用いた目録登録実態
- (3) 現在の問題点
- (4) 問題の解決方法

調査概要

5

日程

2013年 8月 3日（土） - 8月 14日（水）

訪問先

8月6日	米国議会図書館
8月8日, 9日	シカゴ大学図書館
8月12日	コロンビア大学図書館

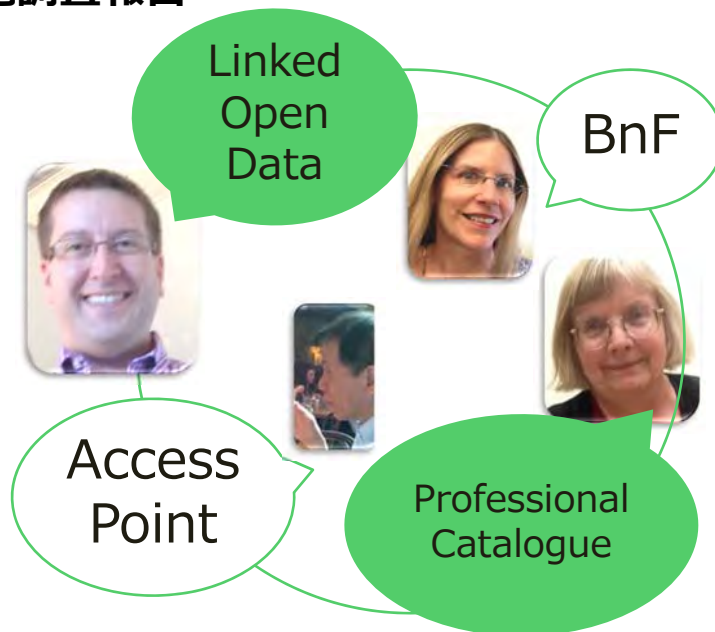
RDAの目的

6

- (1)すべてのメディアに対して、効果的な書誌コントロールができること
- (2) 図書館以外のコミュニティでのデータの利用を促進すること

現地調査報告

7



研修方法

8

ステップ 1	オンラインコンテンツ クイズをクリアしないと次のステップにはいけない	
ステップ 2	LC [米国議会図書館]	PCC [大学図書館とLCの 共同目録プログラム]
	集合学習	オンライン型集合学習

開催期間：2012年6月-2013年3月

受講者数：LC 500名+PCC 3,000名 計3,500名

受講時間数：1コマ3時間×12回 計36時間

特徴：最初に管理職が受講

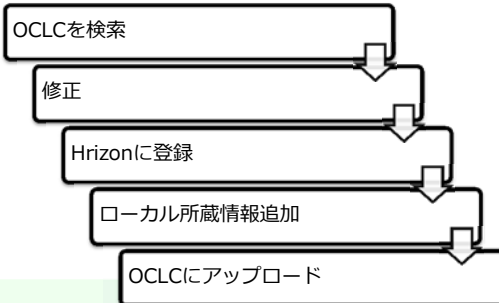
：参加者の環境に応じたプログラム

目録作業の実践

9



■手順



コピーカタログ

機械的な修正

ページ数を表す「p.」を「pages」に変更など

オリジナルカタログ

オプションの判断の揺れ

問題と解決

10

(1) 判断の揺れ

解決策：作業指針(Policy Statement)

(2) アーカイブ資料への不適合

解決策：RDAの改訂?

(3) 図書館以外のコミュニティでの利用可能性

解決策1：BIBFRAMEの策定

解決策2：リンクトデータに向けた統制語の整理

北米のRDA導入

11

移行はスムーズ

(1)段階的な導入 (RDAテスト)

→コアメンバーの確保

→導入の土壌が確立

(2)研修プログラムの充実

目的の実現へ向けて、着実に歩みを
進めている

日本のRDA導入

12

2013年4月

国立国会図書館 洋資料をRDAで作成

2013年9月

「日本目録規則」もRDAに対応した形で改訂

日本でもRDA化の動きが進んでいる



ご清聴いただきありがとうございました。